

# 國策宣言

我々は終りに持った。

實理委員会が教養の面に空想を正すことと、六月二十四日以来、我等は、實理委員会、明治大学に於ける教育と経営の問題を話し合ひ、その矛盾を体系的に止揚すべく、一切の努力を怠らなむことを決意し、その努力は、全くの従前にイキるなつた。

我々の件も、私腹大言の件も、学生に対する買収工作も、一切の、理理会の行為は、我々学生を惑わす、学生を監視し、学生を團結を分断するものとしなむかつた。

## 個別

しなむ我々は、最後の努力を怠らなむかむべく、十月二十五日、今日、又固執をもち、しなむ。理理会の態度は何であらうか。理理会として責任を担うべき理事長、校長の欠席、学費問題の責任者、私不理事の欠席、そういった形勢、我々の前にあらわれ、我々が最も重要と考えること、責任ある回答を出さぬ、いや出さぬ、休職をもち、臨んでは、理理会のも、態度は、さうして我々を全く監視し、話し合う姿勢を一本筋に拒否したものである。

今やまに理理会の教育者としての責任を、この論議の最終的に向けてきて、いかに責任を担うか、我々を監視し、教育者としての責任を、この論議の最終的に向けてきて、いかに責任を担うか、一切の紙状に懸念すべきである。

今日の大言大語で財政すびわりの学費値上げでインペイすること、教育経営の矛盾を、一層拡大するものではない。

我々は、今や重大な決定を待っている。

我々は、全明治三下の学生の手を離して、理理会の空想を正すべからう。

我々も、決して退却を怠らぬ。

その過程で発生する混乱の原因はすべて理理会にあることを宣言する。

昭和十一年十月二十五日

明治大学学生会中興執行委員会  
委員長 大内義明